

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0770800316		
法人名	社会福祉法人 啓和会		
事業所名	グループホームやわらぎ		
所在地	福島県喜多方市東桜ガ丘一丁目136番地		
自己評価作成日	令和2年10月26日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉ネットワーク
所在地	〒974-8232 福島県いわき市錦町大島2番地
訪問調査日	令和2年12月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様が歩んでこられた生活を大事にしながら、笑顔多く過ごして頂けるような支援を心がけています。コロナ禍で地域行事も中止で参加できない状態ではありますが、地域の方々の協力を頂き、広報誌を回覧していただいたり、地元幼稚園児と作品の交換をしたり、工夫をした形で交流をとるよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

認知症カフェや認知症サポーター養成講座を開催し、地域との付き合いに積極的に取り組んでいる。職員全員で作成した理念のもとにコミュニケーションを図り、日々のケアでも自然な笑顔が出るようにしている。職員の意見や要望を受け入れ、業務改善や資格取得を積極的の応援し、ケアの質の向上につなげ、利用者一人ひとりがその人らしく暮らせるよう、取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎年職員と一緒に理念の見直しを行い作成している。理念は目に付く場所に掲示し、職員間で共有しながら、利用者様が笑顔で過ごせるように心がけている。	理念は、全職員参加の会議の中で話し合いを深めながら作っている。常に見えるところに掲示し、毎朝ミーティング時に理念の確認をしている。利用者へは、心地よく過ごせるための支援として、職員による明るい挨拶と敬意を心掛けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、広報誌等定期的に回覧の協力をいただいている。コロナ禍のため、地域行事や学生との交流も出来ない状況ではあるが、地元幼稚園との作品交換の交流を行い、利用者様にもマスクの作成等を手伝っていただき、いままでとは違う交流作りに取り組んでいる。	地域の一斉清掃に参加し、利用者が外出した時は近所の人たちと挨拶を交わしている。近くの中学生は体験学習に参加している。地域の新年会や盆踊りに利用者も加わり、事業所では、認知症カフェや認知症サポーター養成講座を開催している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度はコロナ禍のため認知症カフェも中止となっている。3か月に1回の広報誌に事業所説明や、相談窓口の連絡先を記入し電話での相談を受け入れられる体制を作っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は書面のみでの会議としている。資料と共に、意見・要望書をつけ意見をいただいている。また、議事録や資料を職員間で回覧し情報の共有・サービスの質の向上につなげている。	会議のメンバーでもある区長には事業所のサービス内容を地域の人々により知ってもらうために広報誌に掲載し、広範囲に回覧してもらっている。会議の最後には自由に話し合いの時間を取り、改善案や意見の出やすい関係性を築いている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村の担当者に、気軽に相談出来る関係性を作れるように、積極的に連絡・相談している。	市の高齢福祉課では申請等の件で分からないところを教えてもらっている。ボランティアの輪を広げたいと持ち掛けたところ、ボランティアリストを作成してくれたりして、利用者へのサービス向上につながっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	防犯のため夜間のみ玄関を施錠している。また、定期的に会議を開催し、職員間の対応の振り返りや、何が身体拘束にあたるか考える機会を作り、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	法人内や事業所独自に定期的に勉強会を開催している。参加できない職員には資料により周知徹底を図っている。日中の施錠はなく、外に出たい利用者がいれば職員が付き添い、散歩などをして気分転換を図っている	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修資料を基に事業所内で伝達研修をしている。また、職員同士のコミュニケーションを良好にすることで、ストレスをためない職場作りを心がけている。		

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修会の案内を回覧し、市が開催したYouTubeでの配信研修を閲覧し、伝達する機会を作っている。いつでも対応や相談に応じられるように心がけている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前にわかりやすい言葉で十分説明するように務めている。疑問点には答えながら、理解し納得していただいてから契約を結んでいる。	
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の関わりの中で利用者様の意見や要望を引き出せるように努めている。コロナ禍で直接的にお会いする機会は減ってしまったが、電話での連絡や、毎月のお知らせで様子をお伝えしている。	家族からの要望があり、外泊や外出に個別性を重視し利用者に強制しないように、外泊を行っている。気分転換になり本人が生き生き楽しく過ごすことができるよう、サービスの質の向上につなげている。意見や要望は、職員会議で話し合い、申し送りノートで共有している。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議では、出席できない職員には事前に議題を提案してもらい会議で話あっている。また、朝の申し送り時に、必ず話し合う時間を設けている。日の中で気が付いた点があればその都度耳を傾け、運営に反映させている。	業務分担について職員から提案があり、記録時間の変更を行い、利用者との携わる時間が増え、ケアの質の向上につなげている。資格取得・研修の要望があり、参加できるようにシフトを調整し、職員の質を高めるようにしている。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は出来る限り現場に出向き、職員とのコミュニケーションに努めている。また、キャリアアップ制度の導入により定期的な面談や目標設定を持ち、向かう方向を見えるものになっている。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	参加できる研修会に参加し、スキルアップを図っている。また、YouTubeでの研修のように誰でも見られる機会の研修は職員全員に案内をしている。また、職員間で資料の回覧を行い全体に共有できるようにしている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内で管理者会議を開催し、管理者同士の交流、情報交換を行っている。また、各事業所内での事例についても相談し、検討しサービスの質の向上に反映している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人・ご家族・関係者からの情報をもとに、利用者様と職員の信頼関係を築くことを優先に関わりを持つように努めている。また、軽微な変化や言葉にも耳を傾け安心して生活できる環境を作っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	実態調査・契約時に、本人・ご家族が困っている事、不安なこと、要望などを確認し今後の支援にご家族の思いが反映できるように話あっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	申込や問い合わせの際に、本人・ご家族からの聞き取りにより、その方の一番必要なサービスを見極め、内容によって、他のサービスの情報をお伝えする等の対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の家事全般において、一緒にできる事を協力頂きながら関係性を築いている。また、季節の行事や細仕事などはコツや方法を教えて頂きながら、一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員が支援する一方的な立場とならないよう、常にご家族に報告や相談を行いながら、ともに支援していく形となる様に働きかけ、その中で本人・ご家族の関係性や繋がりを大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍のため面会や訪問はできない状態であるが、本人・ご家族から情報をお聞きし、話題に挙げながら支援に努めている。	コロナ禍前は、近所の方や友人の方に訪問して貰っている。見慣れた風景を見に出かけたり、地域のお菓子屋さんのお菓子を食べたりして馴染みの関係を継続している。地域の行事に参加し、地域住民との関係を、途切れないようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様一人ひとりの性格・認知症状の状態、利用者様同士の関係性を把握し、トラブルを予防しながら、利用者様が過ごせるように心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された後も利用者様の状況を確認したり、ご家族の相談に応じている。その後も、気軽に声をかけていただける関係性に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の生活の中で、利用者様の言葉に耳を傾け、思いや希望を聞き出している。また、ご家族の意向もその都度確認している。常に職員間で「その人らしさ」を話し合い、本人本位のケアに努めている。	家族に会いたいという希望があり、ケアプランに計画し、家族に電話する事や現状を伝え、できる限り会いに来て貰えるよう取り組んでいる。思いの把握が難しい方は表情や行動で読み取り、家族等関係者から今までの生活歴などを聞き、ケアに反映している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	実態調査時、本人・ご家族より生活歴や大切にしている事など細かく聞くように心がけている。入所前の担当ケアマネ等にも声をかけ、細かい事までの情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活歴や性格などを把握し対応するように努めている。新たな発見やいつもと様子が違う時には職員同士が共有できるよう、朝礼時や申し送りノートを利用し共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	実施モニタリングを活用しながら職員全体で介護計画を個別に把握できるようにしている。本人・ご家族の意向を聞きながら作成に反映している。状況に変化があった時には随時見直しを行い、現状に即した介護計画を作成している。	家族の意向を事前に伺い、計画書の原案ができたなら家族にも確認してもらっている。本人の好きな、塗り絵や裁縫、畑仕事を確認しケアプランに反映している。定期受診の際に主治医に相談し、注意点や支援方法について聞き、見直しに反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	朝礼・介護記録やチェック表、申し送りノートを活用し情報共有をしている。何かあればその都度検討し、職員からの気づきも介護計画に反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	行きつけの床屋への送迎や、かかりつけ医への受診の支援等、状況に応じ臨機応変な対応を心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で地域行事への参加は中止しているが、地域の広報やチラシを回覧している。また、ご利用者様の得意とする分野で個人個人の力を発揮できるように個別に支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望に沿ったかかりつけ医へ受診できる体制をとり、受診結果はご家族様と共有している。コロナ禍のため、現在は職員対応で、定期・随時の受診を行っている。	利用者はかかりつけ医へ継続して受診している。基本的には家族対応となっているが、状態変化や相談時には職員も同行している。定期受診時には利用者自身が主治医と直接話し、不安なことを始め、いろいろ相談をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護を利用し、状態を共有している。また、何かあれば併設事業所の看護師にも相談・助言をもらい、利用者様が安心して生活を送れるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、施設での状態の申し送りや利用者連絡票を活用し安心して治療を受けられるように支援している。また、担当のソーシャルワーカーやご家族と連携を取りながら退院後安心した生活が送れるように支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療連携体制及び重度化・看取りに関する指針を定めている。契約時に重度化についての対応の説明をし、その都度相談・検討が必要になってくることも説明している。状態の変化に合わせてその都度援助内容を検討している。	利用者と家族には、申し込みや契約時に重度化や看取りについての説明を行っている。医療行為を受けていない時は、水分摂取や食欲の変化に留意しケアに当たっている。本人や家族の気持ちを計画書に反映しチームで共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアル、連絡網は目につく所に掲示している。看護師による急変時の対応の勉強会を開催したり、対応後の検証をし振り返りやシュミレーションする機会を設けている。また、突発的な事が起きれば、併設事業所との協力体制も出来ている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	月1回の防災訓練を実施している。法人内の管理者会議でも防災について話し合いを行っている。コロナ禍のため、地域委員や消防団の参加は中止となってしまったが、緊急時の連絡体制はお互い話あっている。	避難訓練は月に一度、火災や水害を想定し事業所内で行っている。夜間想定避難訓練を年二回開催し、内一回は地域住民に参加してもらい実際の介助手伝いをお願いしている。災害用として水や食料など3日分を備蓄し、防災頭巾を始め用具も備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの生活歴や性格を把握しながら、人格や誇りを傷つけることのないように、言葉かけには十分配慮をしながら、なれ合いにならないように配慮し対応している。	法人内で、利用者の尊厳やプライバシー保護に関する研修を実施している。市町村主体の研修会にも参加し全職員に周知している。トイレに誘導するときは、用足しやちょっと行きますかなどトイレにまつわる言葉を使わないようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の想いを理解出来るように日々のコミュニケーションを大切にしている。また、色々な選択肢を出して自己決定していただける様に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活歴などを把握したうえで、ご自宅での生活していた内容を理解し、ご自分のペースで過ごして頂ける様に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節や気温に合わせた衣類調整の声掛けや、スキンケアにも配慮している。また、誕生会には職員が着付けを行い、着物を着用して頂く等、行事の雰囲気を感じて頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の身体能力に合わせ、調理の下ごしらえや食器拭きや盛り付け等を一緒に行っている。また、誕生会等食べたいメニューを聞き取りをし、お出ししている。また、畑から収穫した野菜を使った献立や、季節の行事等に合わせた食事を提供している。	利用者は配膳・下膳を職員と共に行っている。穏やかな音楽を流し、楽しい時間となるよう配慮している。献立は職員が作成し、利用者の希望を反映させている。誕生会や芋煮会、クリスマスなど年間の行事食には特別メニューを取り入れている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分量を毎回記録し、一人ひとりの状態を把握している。また、個々にあった食事形態や嗜好に合わせ主治医からの意見も取り入れそれぞれにあった内容で提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアの声かけ、見守りや歯間ブラシの介助等、一人ひとりの能力に合わせた支援を行っている。用具については定期的に消毒し清潔に保てるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を利用し、一人ひとりの排泄パターンを把握している。その都度、必要用具を検討しその方にあった声をかけ、誘導・見守り介助を行い出来る限りの自立支援に努めている。	自宅では、紙パンツの方が、入居後、職員の対応で、布パンツへ、布パンツに移行できている。排便コントロールに関して主治医へ相談し、服薬の間隔についてアドバイスを貰い、トイレで排泄できるようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	押し麦を入れたご飯や、ヨーグルトなどの乳酸菌をほぼ毎日取り入れている。カルピスや野菜ジュース等飲みやすいものを提供し水分補給にも気を付けている。また、細かい排便チェックにより整腸剤の調整を行い、負担のない排便を促せるように努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望に添えるように配慮し、体調をみながら入浴していただいている。また、バスクリンや季節のもの(菖蒲やゆず等)を入れ、目でも楽しんでいただける様に努めている。	入浴は毎日行い、本人の希望する時間帯に、一人でゆっくりくつろげる時間になるようにしている。昔の話をしてくれたり会話が弾み、楽しく入浴して貰っている。エアコンで温度調整し、脱衣所と浴室の温度差をなくし、利用者に負担をかけないようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣やペースを把握し、その日の体調に考慮しながらゆっくり休息ができるように支援している。起床時間や就寝時間は個別に対応し、温度や明るさにも気を付けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが処方された薬を職員間で共有し、薬の変更があれば特記にあげ、日誌の一番前に服薬内容を挟み、職員が見て確認出来るようにしている。また、利用者様の状態変化の早期発見に努め、受診時に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	炊事や洗濯物干し、裁縫や塗り絵等、利用者様の生活歴や特技に合わせた役割を持って頂くことで、自信や楽しみ、気分転換等を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の中、外出ができない状況のため、新聞の写真やテレビ放送で知っている場所が映っている際には声をかけ、その場の雰囲気や味わってもらっている。	コロナ禍前、買い物に行きたい方には一緒に買い物にでかけて貰っている。花見や祭り等の行事に参加し、季節を感じて貰えるよう支援している。行事で出かける時は、事前に下見を行い、現地の状況や休憩場所の確認し、安全・安心に出かけられるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に施設管理を行い、明細・レシートをつけご家族様に報告している。また、所持していないと不穩になる方については、ご家族と相談した上で、少額を所持して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて、ご家族や親類の方々と電話をしたり、手紙のような形式で書いて頂いたものをご家族にお送りしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁面には季節の飾りや、広報誌などを掲示している。共有の空間には、団子刺しや七夕飾り、クリスマスツリー等飾ることで季節感を感じていただいている。また、温度や湿度には気を配り、利用者様の状態を観察しながら快適に過ごせる空間作りに努めている。	カウンターテーブルやソファスペース、畳のある居間・居室、好みの場所で寛いで貰っている。動線から障害物を排除し、利用者の状態にあった補助具を使用し、安全に配慮している。手洗い・うがいや湿度の調整、換気を行い、体調不良時は早めに受診を行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室で過ごしたり、デイルームでテレビを観たり、食堂で本や新聞を読んだり、自由に過ごして頂いている。また、利用者様同士の相性も考慮した席の配置を心がけ、過ごして頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている。(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている。	落ち着いて過ごすことができる様、居室にはご利用者様の思いでの品物や使い慣れた物、ご家族様の写真などを置いて快適な、その人らしい空間スペースを作る様に努めている。	馴染みの物を持ってきて貰い、その人らしく暮らせるようにしている。居室には障害物となるものは置かないようにし、状態にあった補助具を使用して貰い、安全に過ごしてもらえるようにしている。温度や湿度を調整し、居心地よく過ごせるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	常に施設内の様子を伺いながら、一人ひとりの状況を把握しつつ、安全で自立した生活が送れるように目配り・気配りに努めている。そこから利用者様の出来る事を最優先に引き出し、自立支援に繋いでいる。施設内はバリアフリーとなっており、利用者様に合った補助具を使用することで、生活の幅を広くしている。		